



令和2年度 宿利原小学校だより

宿っ子

1月号



学校のホームページは上のQRコードからお入りください



「今年もよろしくお願ひ申し上げます」

校長 有留 盛昭

ついこの間、新年が明けたかと思っていましたら、もう2月が迫っております。皆様はどのような新年をお迎えになったでしょうか。皆様のこの一年の御多幸をお祈りしますとともに、本年も宿利原小学校の教育活動に御協力を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

さて、本校の2階にある資料室に懐かしいものを見つけました。私は子供の頃「叩っごま(たたっごま)」と言っていました。祖父宅で見つけてから、正月になるたびに自分で太い木の枝を削って作るものでした。棒に付けたひもでこまの側面を叩いて、回します。叩き続けるとすぐに止まります。その様子から「不精ごま(ぶしょうごま)」とも言われるそうです。子供の頃友達に見せても、この叩きごまのことを知る者はおらず、だれも興味を持たず、私一人で遊んでいたのを思い出します。こまのことを漢字で「独楽」と書きますが、まさに私一人で黙々と回して遊んでいました。(あっ、兄は付き合ってくれました)今では、叩きごまをすることはありませんが、紐を巻く「投げごま」は得意で、気持ちよく回すことができます。



正月休みの間、広い公園に遊びに行くと、凧揚げをする子供たちをたくさん見かけました。最近では、お店で買った「ゲイラカイト」が多く、少しの風でも高いところまでよく上がります。私が小学生の頃に発売された、この「しっぽがない」「横長の三角形」という奇妙な凧は、少しずつ伝統的な凧に取って代わっていきました。「竹ひごの厚さと重さ」「たこ糸の結び目の位置」「しっぽの長さ」と左右バランス」に悩むことはなくなりました。

先日、宿利原小学校では恒例になっている、凧揚げ大会を行いました。風がわずかに吹く、いやほとんど吹かない暖かい日でした。子供たちはお家の人と一緒に作った凧を一人一人紹介してから凧揚げを始めます。手作りの凧は、子供たちを必死にさせます。風がないので、飛ぶまで一生懸命グラウンドを走ります。飛ばないときは、原因を考えます。高いところで風を捉えた子供は満面の笑顔です。



凧揚げ大会では、毎年連凧も上げていますが、無風状態では、どんなに走っても空高くは上げられませんでした。こちらは、条件のよい日にもう一度挑戦し、6年間分(約120枚)の凧を6年間分の思いと一緒に上げる予定です。

お正月は過ぎましたが、「物事が円滑に回る・お金が回る」縁起を込めた独楽回し、「健康・健やかな成長」を願う凧揚げ、日本伝統を通して、子供たちに、そして皆様に幸多き一年を願いたいと思います。

